

## 医師部門

受賞者： <sup>かわい</sup>河合 <sup>ただし</sup>忠 (83歳)

有限会社国際臨床病理センター 所長



河合氏は、北海道大学医学部を卒業後、渡米し日本人として初めて米国病理学（AP 解剖病理学／CP 臨床病理学）専門医資格を取得した。帰国後、臨床病理学、臨床検査医学の分野で幅広く活動し、戦後導入された米国式の新しい臨床検査医学体系の普及とサービス向上に努め、日本専門医機構の基盤診療分野に認定されるまでの発展に大きく貢献した。

教育面では、臨床検査専門医・技師の育成にも尽力し、日本大学医学部教授、自治医科大学教授を歴任、新しい教育方法「Reversed CPC」を導入し、広く全国に普及した。研究面では、血漿蛋白分析の臨床的意義について幅広く研究し、多くの書籍・論文を出版し、英語版、スペイン語にも翻訳され、各種受賞した。

氏は活発な国際交流を進め、WHO/Health Laboratory Unit/Expert Panel、世界病理学・臨床検査医学会連合会長などを歴任、アジア圏で初めての「金の杖」最高優功賞を受賞した。さらに、米国、ドイツ、イタリア、アジア地域の関連学会との交流を深め、多くの名誉称号を授与されている。

氏の最大の功績は、国内外における臨床検査の精度管理と国際標準化の推進である。臨床検査の重要性はまだ十分に理解されない時代から、多くの苦難を乗り越え、40年余りにわたり各種団体の役員として国内外の標準化活動を主導してきた。定年退職後も発展途上国の医療技術職の実技研修を多く実施し、研修員が日本で学んだ技術、知識を帰国後、実践し普及できるよう支援し、医療技術の振興に尽力している。

今後は、主治医と臨床検査室間の連携をより一層深め、臨床検査のより効率的利用の必要性の広報と実現方策を構築するべく精力的に活動している。

推薦者： 大橋 俊夫 信州大学医学部 名誉教授・特任教授  
村田 満 一般社団法人日本臨床検査医学会 理事長  
慶應義塾大学医学部 臨床検査医学 教授  
小西 恵一郎 公益財団法人国際医療技術財団 代表理事